

平成22年度 京都府立山城高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
①文武両道に基づく、自主自律の精神を育み、将来の国家社会の担い手として、たくましく生きる人材の育成を目指す。	①食育や健康教育等を通して、生徒の生活習慣の確立を一層図ること。 学校生活全体を通して、生徒の自主自律の精神を一層培うこと。	①基本的な生活習慣を確立させ、健康な心と身体を育む教育を進める。規律を守る学校生活、自主活動、社会的視野を広める取り組みを通して、次代の社会を担う人を育てる。
②生徒が自ら進路を切り拓くため、大学との連携を視野に入れた、確かな学力を保證する質の高い授業を展開する。	②生徒の授業を大切にしている態度や家庭学習の習慣を養い、学習意欲を高めること。 進路実現を図る指導体制を充実すること。	②日々の授業を大切に生徒が学習意欲を高め、自信を抱き、確かな学力をそなえ、自らの進路実現につなげるよう、導く。
③人権と学ぶ権利が尊重される、共に学び合い、ロマンあふれる文化の花開く学校づくりを目指す。	③聴覚障害教育、特別支援の必要な生徒など、多様な生徒に対する指導内容、方法についてさらに研鑽し、指導体制を充実すること。	③多様な生徒について理解を深め、その指導について研鑽する。聴覚障害教育、特別支援教育にかかる従前の成果と課題をふまえ、指導体制について充実・強化を図る。
④教職員が一致団結し、常にプロ意識を持って教育活動に専念できる働きがいのある学校づくりに努める。	④学習指導、生徒指導について、相互に研鑽向上を図り、全教職員の連携、一致した指導を進めること。	④校内での情報共有を図り、互いに連携、協力しあう環境を整える。内外による学校評価に基づき教育活動の点検および改善を行う。研鑽して専門性を高め、信頼される学校づくりを目指す。
⑤京都の伝統校として、卒業生や地域に信頼され、その期待に応える、品格のある学校づくりを一層進める。	⑤PTAや同窓会等の連携・協力を図りながら、伝統や地域との関係を大切に、開かれた学校づくりを進めること。	⑤学校の活動を発信し、地域の理解を得られるように努める。PTA同窓会等の支援・連携のもと、多様で特色ある本校の教育活動を進める。
⑥新設の文理総合科においては、英語力を初めとする豊かなコミュニケーション能力を育てるなど、新しい教育理念の実現を図る。	⑥文理総合科にあつては、三年を経た昨年度総括をふまえて、今後の充実・発展期としての取り組みをめざすこと。	⑥文理総合科にあつては学科の理念を具現化する多様な取り組みを一層充実させるとともに、学校全体への波及、活性につなげる。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	期末	総括	
組織・運営	学校評議員等外部の評価・意見を聴取し、改善を図る 役割分担を明確にし組織的な学校運営を図る	学校経営計画の公表	1	A	A	組織体制の強化を図るとともに、学校評議員会の充実等、一層開かれた学校づくりを進める。
		学校評議員・PTAから評価・意見を聴取するアンケートの実施	2	C	B	
		次年度に向けた改善点の明確化	3	B	B	
		経営方針・重点目標の理解	4	B	B	
		担任・教科担任間及び分掌・教科間等の連携	5	B	B	
		各種会議の効率的運営	6	B	B	
		外部機関との連携	7	B	B	
教育課程	課題整理と改善を行い、生徒の全面的な発達を促進	現状における課題を整理した教育課程の検討と実施	8	B	B	教科間の連携はさらに図っていく必要がある。
		生徒の進路実現に向けた教育課程の工夫	9	B	B	
		教科間の連携の強化	10	B	C	
教科指導	基礎基本の充実と、興味・関心の深化 表現力や鑑賞に係わる能力について学習指導を充実	基礎・基本の確立のため、補充や家庭学習の充実を図る	11	B	B	各教科担当者の連携を強化し、指導方法等の改善を進める。
		定期的な課題を課し、確認テストなどの小テストを実施	12	B	B	
		定期考査と日々の指導と効果的な関連付けを行う指導	13	B	B	
文理総合科教育	文理総合科を核とした国際的・現代的視野の育成	個に応じた指導方法の精選や計画的に題材を選び学力を向上	14	B	B	学校体制として取組の充実が図れた。
		創造力を全ての教科へ敷衍し、豊かな表現力を醸成	15	C	C	
		特別講座の英語によるプレゼンテーションの展開	16	B	B	
特別活動	生徒の自発的自主的な取り組みを推進	語学研修や国際交流によるコミュニケーション体験の実施	17	B	B	高い部活動加入率であり、活気ある学校行事を維持できている。
		文理総合科の先進的教育を普通科に押し広げる取組を推進	18	B	B	
		部活動への積極的参加の促進	19	A	A	
進路指導	進路希望の実現に向け、進路選択能力の涵養と学力向上を図る指導の充実	体育祭・文化祭等、学校行事に生徒の主体的活動を促す	20	A	A	分析に基づいた進路指導計画の改善を図る必要がある。
		自主的な自治会活動やHR運営委員会の活性化を促す指導	21	A	A	
		各種補習ならびに3年間を見ずえた補習計画の立案・実施	22	B	B	
		進路HR・進路ガイダンス・面談の系統の実施と進路情報の提供	23	B	B	
		多様化する入試・就職状況に対応する情報の収集と提示	24	B	B	
		人間の生き方と関連づけ進路を考え目標をもたせる柔軟な指導	25	B	B	
生徒指導	基本的生活習慣の確立と社会的マナーの育成 社会的規範意識の高揚	各種模擬試験の分析	26	C	C	身だしなみ指導における今年度の成果をふまえ、マナー指導等の一層の改善が必要である。
		集団の一員として規則の意味と内容を理解させ遵守させる指導	27	B	B	
		身だしなみや生活態度・言葉使い・礼儀等社会的マナーの指導	28	B	B	
		携帯電話・自転車乗車のマナーや時間等を守る指導	29	B	B	
		問題行動に対する事前防止・事後継続指導の実施	30	B	B	
		問題行動の早期発見のため、担任、関係機関との連携強化	31	B	B	
人権教育	個を大切にする教育の推進及び人権問題についての正しい理解を図り、他者を尊重する態度を培う	困難な条件の生徒の社会的自立を目指し進路保障の取組を推進	32	B	B	日常の教育活動全体の中での人権教育の推進を一層進める必要がある。
		全校で「人権教育特設LHR」を計画し、実践的態度を育成	33	B	A	
		生徒の実情と課題に応じた人権教育の在り方の追求	34	B	B	
		生徒と接する時間を確保し日常的な人権問題に気づかせる指導	35	B	C	
		人権学習を通し他人への思いやりや正義感の大切さを学ばせる	36	B	B	
		情報活用能力を高められるような授業の展開の工夫	37	B	B	
メディア・リテラシー（情報伝達処理能力）	主体的な情報選択能力と、モラルある表現力と情報活用能力の育成	図書や新聞の活用と読書意欲の向上や読書習慣の形成	38	B	B	現在、実施されている教科等での指導をより一層充実させるとともに、学校全体の取組として進めていく必要がある。
		学習情報センターとしての学校図書館の計画的な利用の推進	39	B	B	
		図書館・コンピュータ教室の情報センターとしての機能の向上	40	B	B	
		留学生受入時や海外研修旅行時における自国文化の紹介	41	B	B	
国際理解教育	自文化理解に基づく他文化理解の推進	外国の学校との交流や留学生の受入を通じた他文化理解の推進	42	B	B	文理総合科のみならず、普通科へもさらに広げていく必要がある。
		生徒の健康課題に適した教育の充実	43	B	B	
		健康診断を通じて自らの健康を管理し、育成する能力を向上	44	A	A	
健康安全教育	健康安全教育の実施をはかり、心身ともに健全な生徒の育成に努める	交通安全の啓発と安全に貢献できる能力と態度の育成	45	B	B	生徒の心身の保健管理・健康教育の充実を図れた。
		保健だよりを中心とした広報活動の充実	46	B	A	
		身近なところから地球環境を考える授業を各教科で展開	47	C	C	
環境教育	校内美化の推進と身近な環境問題に関心をもち、主体的に行動する態度や能力の育成	環境に優しい3Rを推進する主体的な態度を育成する指導	48	C	C	教科における環境教育をさらに進めていく必要がある。
		生徒が使用する施設の清掃・美化活動を指導する	49	B	B	
		保健委員会を中心とした環境問題への取り組みを推進	50	C	B	
		特別支援教育への理解を深め、校内体制を整備	51	C	B	
特別支援教育	特別支援教育を円滑に推進	専門的な教育機能の向上	52	C	B	現在の取組をさらに学校全体に広めていく必要がある。
		特別支援コーディネーターを中心とする専門機関との連携の推進	53	B	B	
		聴覚・補聴器・聴覚支援機器等の活用と管理	54	A	A	
聴覚障害教育	聴覚障害生徒への個に応じた支援と指導及び聴覚障害教育についての啓発と環境の整備	学習課題への支援と進路実現に向けた関係機関との連携の強化	55	B	B	学習支援体制の一層の改善・強化を進めていく必要がある。
		全校生徒への聴覚障害への理解の促進と啓発的指導の推進	56	A	A	
		聴覚障害教育推進にむけた分掌間の連携調整及び研修会の実施	57	A	A	
		府総合教育センター研修の受講者数の増加	58	B	B	
研究・研修	研究・研修を通じ、資質能力の向上を図る	各分掌主管の教職員研修会をそれぞれ年1回以上実施	59	B	B	昨年度並みの研修を実施した。
		危険要因を回避するため学期に1回自主点検を実施	60	A	A	
施設・設備の整備・管理	施設・設備の安全管理 教育環境の保全と安全の確保	課題発生時、各部と調整協議し早期対応を実施	61	A	A	さらに継続・充実させていく必要がある。
		校内緑化事業や校内美化の計画的な実施	62	B	B	
		保存期間を経過した文書の破棄・整理を年1回実施	63	A	A	
文書・情報管理	適正かつ円滑な処理の徹底	文書等の管理の徹底	64	A	A	日常的に趣旨徹底
		保護者との連携を常に意識し協力関係を構築	65	A	A	
家庭・地域社会との連携	連携を密に保ち、相互の信頼に基づく協力関係を構築	PTA活動を通じ、教育活動への親と学校の相互理解の深化	66	A	A	携帯メール等を使用した、学校からの情報発信を実施予定
		模試データ等のデータベース化及びその分析を実施し、各教科での指導方法等の改善へとつなげていく必要がある。	67	A	A	
次年度への課題	・模試データ等のデータベース化及びその分析を実施し、各教科での指導方法等の改善へとつなげていく必要がある。 ・平成25年度入学生の教育課程の策定及び3年間を見通した進路指導計画の改善を図る予定である。 ・身だしなみ指導、マナー指導等の一層充実を図る。					

* 評価の基準

A：達成できている。 B：どちらかといえば達成できている。 C：どちらかといえば達成できていない。 D：達成できていない。

